

株主との建設的な対話に関する方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指していくにあたり、創出すべきあらゆるステークホルダー（以下「株主等」という。）の価値や当社の強み等を見極めたうえで、成長基盤の構築・強化に着実に取り組んでいくことが重要であると認識している。そのためには、長期視点での株主等とのパートナーシップが不可欠であり、以下の方針により、株主等との建設的な対話を合理的な範囲で推進する。

(1) 推進体制

- ① IR 担当役員を責任者として、株主等との建設的な対話を促進する。
- ② IR 担当部門を設置し、株主等との建設的な対話の促進を補佐する。
- ③ IR 担当部門と財務、経理、人事総務担当部門等の関連部門とは、日常的な情報交換等により、株主等との建設的な対話の促進に向け、有機的な連携体制を構築する。

(2) 株主等との対話

- ① 株主等との対話は、合理的な範囲で、代表取締役社長、IR 担当役員または IR 担当部門もしくは人事総務担当部門が行うことを基本とする。
- ② 株主等との個別面談以外に、次のような取組みを実施する。
 - (i) 中(長)期経営計画及び事業戦略や事業内容等に関する説明会等の開催
 - (ii) 証券会社等主催の IR カンファレンス等への参加
 - (iii) ホームページ、株主総会招集通知及び株主通信等を通じた情報提供の充実
- ③ 株主等との対話の実効性を確保するため、実質株主の把握に努める。

(3) 株主等の意見の社内へのフィードバックの仕組み

- ① IR 担当役員及び IR 担当部門は、決算説明会及び決算発表後の機関投資家の評価・コメントを、経営会議体において報告する。
- ② IR 担当役員及び IR 担当部門は、上記①以外にも株主等との対話から得た意見及び懸念について、必要に応じて経営会議体において報告する。

(4) インサイダー情報の管理

株主等との対話においては、社内規程（「内部情報管理規程」）に従い、インサイダー情報を適切に管理し、公平な情報開示を徹底する。

以上